

佐波・神島地域の 被災地視察学習会で 防災の大切さを学びました

■6月3日(日)10:00~11:30 57名が2016年6月発生した猪之子川堤防決壊による水害状況(西学区範囲内)の災害に遭われた経験の場所を歩いて被災地の状況を学びました。佐波公園で開会行事をし、そのあと被災状況について現地視察学習がありました。



【金藤会長の挨拶】



【井上佐波町内会長挨拶】



【有木神島町内会長挨拶】



【近藤さんの
水害メカニズム説明】



【中川さんの佐波水害の説明】



【松浦さんの溜池決壊災害の説明】

■昭和42年7月に発生した溜池決壊の現地へ視察に行き詳しく説明を受けました。



【溜池までの坂道と
横の水路を洪水が一機に流れた】



【農業用ため池堤防】



【溜池の内で松浦さんの説明】

■2016年6月22日・23日の水害に遭った人たちに聞きました。



【当時の水位を棒で示す】



【床上浸水の家に傷跡が今も…】



【瀬戸川の堤防より低地の様子】

- 神島ポンプ場へ行き、福川の洪水ネックになったという、50年間働き続けたポンプの説明を西迫さんから説明を受けました。



【警報が出ると3日3晩詰めて監視です】



【50年間、良く働いてくれました。ありがとう！】

- 神島神社の入口で(前)町内会長 畑さんから水害の様子を聞きました。



【当時の水害の様子を語る畑さん】



【手の位置まで水没して床下浸水】

- 閉会の挨拶は掛谷副会長が感慨深く話されました。最後に「炊き出し」を美味しく頂きました。



- 今回初めて被災地域に伺って、災害のメカニズム・被災の現実・被災した人々の悲しみや苦しみを自分の肌で味わうことが出来ました。
災害に遇われた方の苦しみをわが苦しみとするときに「共に助け合う防災」が生まれるのでしょ。お金や物で人の悲しみは癒えません。金藤会長がいつも言われるように「何も出来んけれども、まず行ってあげることから始まる」と。
人の優しさが何よりも大事なことだと今回の視察学習で学ぶことが出来ました。

(西学区自主防災協議会事務局)